

令和3年度 第1回水産研究所研究評価委員会 (中間・事後・事前評価結果)

日時 令和4年3月18日(金) 9時30分から12時00分まで
 場所 WEB会議
 委員 (大) 三重大学 大学院生物資源学研究所 教授 神原 淳
 (国研) 水産研究・教育機構 水産技術研究所 南勢拠点長 中易 千早
 三重県漁業協同組合連合会 指導部長 植地 基方
 北村物産株式会社 代表取締役社長 北村 裕司
 生活協同組合コープみえ 副理事長 大野 智香子

中間評価 「水産物付加価値向上支援事業」

「三重県産養殖魚の産地間競争力強化技術開発」

項目を研究の進捗、目標達成の可能性、課題の取扱いとし、評価を実施した。結果は下表のとおりで、研究の進捗について「やや遅れ」と評価された事業があったため、コメントを参考にして計画の見直しを行う。

中間評価結果 (数字は委員5名中の該当委員数)

課題名	研究の進捗				目標達成の可能性				課題の取扱い		
	計画以上	目標通り	やや遅れ	遅れ	非常に高い	高い	やや低い	極めて低い	継続して完成させる	課題整理 予算縮小が必要	中止すべき
水産物付加価値向上支援事業	3	2	—	—	5	—	—	—	5	—	—
三重県産養殖魚の産地間競争力強化技術開発	—	4	1	—	—	5	—	—	5	—	—

事後評価 令和3年度終了課題

「内水面資源活用高度化研究事業」

目標の達成度、技術の発展性、技術移転・普及の具体性、今後の研究方向について評価を実施した。結果は下記のとおりで、全委員が、目標達成度を「目標どおり」と評価した。

事後評価結果 (数字は委員5名中の該当委員数。複数回答あり。)

課題名	目標の達成度				技術の発展性			技術移転・普及の具体性 (複数回答可)			今後の研究方向		
	目標以上達成	目標どおり	一部不十分	不十分	課題として発展性あり	一部の中小課題について発展性あり	発展性は少ない	技術移転の可能性あり	製品化・普及の具体性あり	技術情報として有効	新規課題として未完成技術の発展を図る	未達成課題は継続して完成を図る	課題を終了する
内水面資源活用高度化研究事業	—	5	—	—	3	2	—	2	1	3	2	3	—

事前評価 令和4年度の新規予定課題

「内水面漁場環境調査事業」

項目を研究の必要性、効率性、有効性とし、各項目について5段階（5点：かなり高い、4点：やや高い、3点：普通、2点：やや低い、1点：かなり低い）の評価を実施した。

結果は下表のとおりで、委員による各事業の総合評価は、4.3であった。

事前評価結果（数字は委員5名の平均得点）

課題名	必要性	効率性	有効性	総合評価 (平均)
内水面漁場環境調査事業	4.8	3.8	4.2	4.3